受賞者　≪琵琶湖汽船株式会社≫
≪株式会社杢兵衛造船所≫

＜環境に配慮した新造船「ｍｅｇｕｍｉ（めぐみ）」を建造(平成 21 年 1 月就航)＞

【材質】アルミニウムと他船の船体の再利用により環境負荷の低減に貢献
【船体】軽合金製トリマラン（三胴）船型の採用により環境負荷を低減
【主機関】バイオ燃料添加型ディーゼル対応機関を導入し CO2 排出量を軽減
【環境保全の啓発】環境啓発機器を搭載し環境学習できる機会を提供
【シップ・オブ・ザ・イヤー2008】日本船舶海洋工学会より平成 21 年 6 月受賞

１．湖岸に住む企業市民として

琵琶湖汽船株式会社は、これまで百二十年以上にわたり琵琶湖と共に生き続け、その豊かな恵みを受けてまいりました。

【環境方針】「湖岸に住む企業市民であるという自覚を持ち、環境と観光における類まれな資産である琵琶湖の環境保全は勿論のこと、自然環境に配慮した日常の行動を通じ地域社会と共存して行きます。」

【企業理念】「母なる湖・琵琶湖を大切に思い、その恵みに感謝し、現在及び未来の人々が感動的で幸せな体験を琵琶湖でできるように、積極的に行動します。」

当社は、このような環境方針と企業理念に基づき事業運営を行っていますが、今回の新船計画におきましては、お客様に琵琶湖に親しんで頂くという親水性と環境をコンセプトとして『megumi』（122 トン）を建造しました。ちなみに、『megumi』の名前の由来は、前述の企業理念にある「恵み」に由来するものです。そして、株式会社杢兵衛造船所と共にコンセプトに沿って調査・研究・打ち合わせを重ねながら竣工を迎えることができました。

２．新造船『megumi』について

【親水性】1Ｆフロアは水面との距離が近く、スライド式の窓を採用しているので、全開放すると湖を渡る風を感じ取ることも可能で、湖面に立っているような感覚を得ることができます。円形ステージと階段状の観覧席を設け、採水実習などの親水性のイベントが実施できるようになっています。

【環境】船型の決定においては、効率性を優先させることによって主機関の出力を小さくし、燃料消費を抑え、二酸化炭素の排出量を削減することを主題としました。加えて、できるだけ他船の運航にも影響を与えない安全面も考慮し、抵抗が少なく航跡波が小さいトリマラン（三胴）船型を採用することになりました。同一航路（ぐるっとびわ湖一周クルーズ）において、当社『リオグランデ』（94 トン）と比較した場合、航路あたりの燃料消費量は『リオグランデ』950Ｌに対し『megumi』600Ｌ（BDF 含）と 350L・約 35%減少を実現しています。また、バイオディーゼル燃料を 20%まで混合可能な主機関を導入し化石燃料の消費を削減しています。環境負荷の低減のため、自然エネルギーの利用として、8 枚のソーラーパネルからなる太陽光発電システムと、2 台の風車からなる風力発電システムを導入しました。

３．琵琶湖との共生を目指して

「環境の聖地・びわ湖」の旅へとお客様をお誘いするため、「琵琶湖・環境科学研究センター」の協力を得て「水中ロボット」など環境調査機器を活用した環境体験クルーズやＮＰＯ法人びわ湖トラスト、ヨシネットワークなど地域で活動されている諸団体と協働して湖上体験クルーズを展開中です。